

令和6年度 学校関係者評価書（川南町立山本小学校）

項目	評価指標 及び 具体的目標	自己評価		結果の考察・分析および改善策等	関係者評価		学校関係者評価委員の意見
		項目	総合		項目	総合	
Ⅰ 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進							
1	家庭教育の充実に努める。 ・家庭教育の支援 ・個人面談等を生かした子育て不安等の解消	2. 9	3. 1	○必要に応じてSC、SSW等と連携を図り、保護者を対象とした教育相談を実施するなど家庭教育の支援に努めることができた。 ○家庭教育学級において、保護者の要望を生かした内容を取り入れ、会の充実を図ることができた。	3. 0	3. 4	○SC、SSW等との連携推進が大きく進んだ。学校だけでは解決できない問題もあるため、このように外部機関や専門機関と連携した取組を次年度も推進していただきたい。 ○家庭教育学級では、地域人材を活用した講演会など充実していた。今後も、さらなる充実を図っていただきたい。
2	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。 ・地域の人的、物的資源の積極的な活用 ・家庭と連携した健康教育、食育の充実 ・学校運営協議会委員を生かしたPTA活動の活性化	3. 3		○米作りや奴踊り、運動会など多くの教育活動で地域や保護者の協力を得ることにより、取組を充実させることができた。 ○学校運営協議会において、①挨拶②読書活動推進③家庭の教育力向上④郷土愛の育成⑤命を大切にすることの態度の育成を目標として掲げ、その実現に向けて取り組むことができた。 ○地域人材を積極的に活用することで、本校の教育活動の充実につなげることができた。	3. 7		○学校運営協議会において、学校経営ビジョンや児童の実態に基づいて、目指す児童の姿を明確化し、共有することができたことがよかった。 ○地域の文化財や遺跡、神社仏閣の歴史や譚れ等を学ぶ機会があると、さらに郷土を愛する児童の育成が期待できる。 ○学校教育に地域人材が有効に活用されたことで、地域とともにある学校の実現が図られてきている。
Ⅱ 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人財を育む教育の推進							
1	読書活動を推進する。 ・学校図書館活用の充実 ・町立図書館との連携 ・読み聞かせ、ファミリー読書の推進 ・各種作文応募、新聞等への投稿促進	3. 8	3. 1	○学校図書館の充実及びその積極的な利用についての呼びかけとともに、花咲き会の方々の読み聞かせ等より、読書量が大きく伸びた。 ○山本小読書フェスティバルの実施により、児童の読書の興味関心が高まり、読書量が大幅に伸びている。 ○宮日新聞への投稿や地域広報誌における掲載などを通して、書く活動への意欲が高まった。	4. 0	3. 4	○読書フェスティバルや読み聞かせ等は、様々な工夫を取り入れながら実施されており、児童や保護者に読書の大切さを感じさせる内容だった。 ○年間読書目標冊数(1万5000冊)の目標達成が見られている。このことは、読解力の向上や思考力・表現力・集中力等、子どもたちの人生に大きな影響力を及ぼす重要な取組である。次年度も継続していただきたい。
2	確かな学力を育む教育を推進する。 ・「分かった、できた」と児童が自信をもって言える授業改善及び家庭学習の充実 ・望ましい学習習慣と読解力の育成(主題研) ・情報モラルを身に付け、ICTを活用できる児童の育成	3. 1		○少人数の特性を生かし、個別最適な学びを保証する授業づくりについて研修し、共通理解のもと、全職員でその実践に取り組んできた。 ○読解力を高める授業研究が3年目となり、集大成としての実践的授業研究を年間を通じて実施し、読解力の向上に努めてきた。 ○ICT支援員の活用により、教師の指導力向上や児童のスキルの向上が図られた。	3. 4		○個に応じた授業ができるのは、1学級あたりの人数が少ない本校の最大の利点であり、それを実践できていることが素晴らしい。 ○授業を参観すると、わからない児童や進んでいる児童に対して個に応じた指導がなされている。児童が「わかる」「できた」という達成感や成就感を抱き、「次も頑張ろう」というやる気や意欲が高まることは、将来に向けてのキャリア形成にもつながる。
3	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。 ・「山本小当たり前のこと3か条」の指導及び教育活動全般を通じて、自己肯定感の育成 ・いじめの未然防止及び自他の生命を大切にすることの道徳教育及び人権教育の推進	3. 2	3. 2	○人権教育週間に人権意識の高揚を図る授業を全学級で行うなど、全教育活動を通して、人権を尊重する教育を重視してきた。 ○毎月のアンケートや教育相談、ハートフル委員会での手立ての構築などを通して、問題行動やいじめ等の早期発見及び早期解決を図ることができた。	3. 3	3. 4	○人は生まれながらにして、社会のルールの中で、自由に考え、自由に行動し、幸福に暮らす権利をもっている。いじめは、心や体を傷つけ、嫌な気持ちやつらい気持ちにさせる。心の痛みとはどのようなことなのかを理解させ、思いやりのある優しい心がもてる人となるような人権教育の充実に今後ともお願いしたい。 ○悩みアンケートの毎月の実施や個人面談は有効である。
4	特別支援教育を推進する。 ・校内組織の充実及び関係機関との連携 ・個別の教育支援計画、指導計画の共有及びその活用 ・通級指導教室(川南小)との連携	3. 1		○校内特別支援委員会及びケース会議、SC、SSW等との協議や情報交換等を通して、個に応じた支援の姿を協議しながら、児童の困り感の解消に努めてきた。 ・川南小の通級指導教室との連携や児湯びなす支援学校コーディネーターの指導助言を受けながら、組織的支援の充実を図ってきた。	3. 2		○個々の能力を引き出ししながら、社会に溶け込み、自立できるように特別支援教育を大切にいただきたい。 ○特別支援に係る校内外の研修の充実に加え、医療機関、SC、SSW、放デーなど、諸機関との連携を図り、今後も、児童の困り感の解消に努めていただきたい。
5	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。 ・「みどりの少年団」の活動の充実 ・「Team Kawaminami学びのネットワークづくり事業(地域学校協働本部事業)」の活用	3. 3	3. 3	○みどりの少年団では、校内緑化活動推進に加え、「緑の募金活動」に意欲的参加し、進んで活動する姿が見られた。 ○地域の方々の協力により、様々な体験活動等への取組を通して、地域人材とのかかわりを深めるとともに、地域社会に参画する態度や、郷土を愛する心を育成することができた。	3. 8	3. 5	○今年度も「トロンロン夜市まつり」で、山本小みどりの少年団員が意欲的に「緑の募金」活動を行っている姿が素晴らしいかった。 ○「みどりの少年団活動」で児童が育てた花がいつもきれいに咲いており、活動の充実ぶりがうかがえる。 ○本年度、地域人材の活用のみならず、児童が地域に貢献する態度を育成する機会があったことは、大いに評価できる。
6	キャリア教育を推進する。 ・幼保小中との連携、及びキャリアパスポートの活用の推進 ・学年の発達段階を考慮したキャリア教育の見直しと計画的な実施	3. 3		○キャリアパスポートを活用し、学習や学校生活の目標を設定し、達成度を自己評価しながら、自己の成長や課題を把握させることができた。 ○地域人材を活用したキャリア教育講演会や絵画の展覧会など、キャリア教育の充実に努めてきた結果、児童の郷土愛や郷土を誇りに思う心の育成などが図られた。	3. 5		○学校運営協議会を通じて、キャリア教育での人材選出などを学校のニーズに応じて連携で行うことができたことは評価できる。 ○キャリア教育の視点からカリキュラムを構築していくことも重要ではないか。 ○地域の基幹産業である農家の方々による農業についての講演会をキャリア教育の内容に位置づけていただきたい。
7	社会の変化に対応した多様な人財を育む教育を推進する。 ・ICTを活用した授業づくりの推進 ・ALT活用による国際理解教育の推進	2. 6	3. 2	○ICTを活用した授業を積極的に取り入れることで、思考の視覚化や情報の共有化が促進され、児童の主体的な学びを促すことができた。 ○より効果的なICTの活用の方針について、さらに研修及び実践を深めていく必要がある。 ○ALTの活用により、ネイティブな発音及び海外の文化に触れることで、児童の国際感覚が磨かれた。	2. 9	3. 3	○授業参観でICTを積極的に活用した学習が見られる。教師のICTへの慣れには個人差があるかと思うが、校内研修などを通して、どの学級でも同じようにICTを効果的に取り入れるようにしてほしい。 ○ICTの活用を図る時に、児童の思考力や創造力が低下しないような工夫や不足した際にどこでそれらを補填するかについての配慮も必要である。
Ⅲ 教育を支える体制や環境の整備・充実							
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。 ・「チーム山本小」としての組織的取組の推進 ・新しい研修制度を生かした教職員の資質向上の推進 ・業務の精選及びコンプライアンスの徹底	3. 0	3. 2	○計画(Plan)-実施(Do)-評価(Check)-改善(Action)サイクルにより、学校組織を円滑に運営し、経営ビジョンの具現化を目指した組織的な取組を推進してきた。 ○校内研修の取組を充実させることで、読解力育成に向けた授業改善や少人数の特性を生かした授業の推進を図ることができた。また、コンプライアンスの徹底を図るための研修の充実に務めた。	3. 3	3. 3	○学校経営において、PDCAがどのように行われているのか、今後、具体的に示していただきたい。 ○コンプライアンスの徹底はどの業種でも求められている。特に、学校には模範となるような取組を今後も期待したい。
2	安全、安心な教育環境の整備・充実に努める。 ・「自分の命は自分で守る」安全教育・防災教育の充実 ・安全点検の効果的な実施 ・基本的な感染症対策の継続	3. 5		○安全・防災教育に関する行事を確実に実施することができた。特に、「子ども目線による安全点検」において、児童と教師が安全点を行ったことは、危険察知能力育成の観点から有効だった。 ○新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ予防のため手洗い・うがい・徹底した学校と家庭との連携して取り組んできた結果、感染を最小限にとどめることができた。	3. 3		○近年中に発生が予想される南海トラフの大地震に備えた防災教育及び対策は、学校でも地域でも大切なことになる。相互に連携した取組を整備していく必要がある。 ○流行性の疾病については、今後も新型コロナウイルス感染症以外にもいろいろな流行が懸念される。その観点からの指導を状況に応じて適切に行っていただきたい。
Ⅳ 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進							
1	学校体育の推進に努める。 ・学校体育の充実による体力向上 ・地域スポーツ団体との連携や国民文化祭への作品応募や参加の推進	2. 8	2. 8	○運動会や持久走記録会に向けた練習などを通して、児童の体力を高める取組を行うことができた。 ○体力テストで全国平均を下回った反復横跳び・立ち幅跳び・長座体前屈を中心に、それらの課題を改善するための「スクールスポーツプラン」を作成し、日常の体育の中で、それらの強化を図っている。	3. 0	3. 0	○運動会や持久走大会を見ると、全体的に走力には問題がないと感じる。その一方で、体力テストで全国平均を下回った反復横跳び・立ち幅跳び・長座体前屈などについては、継続的な指導をお願いしたい。